令和５年１１月１３日

保　護　者　様

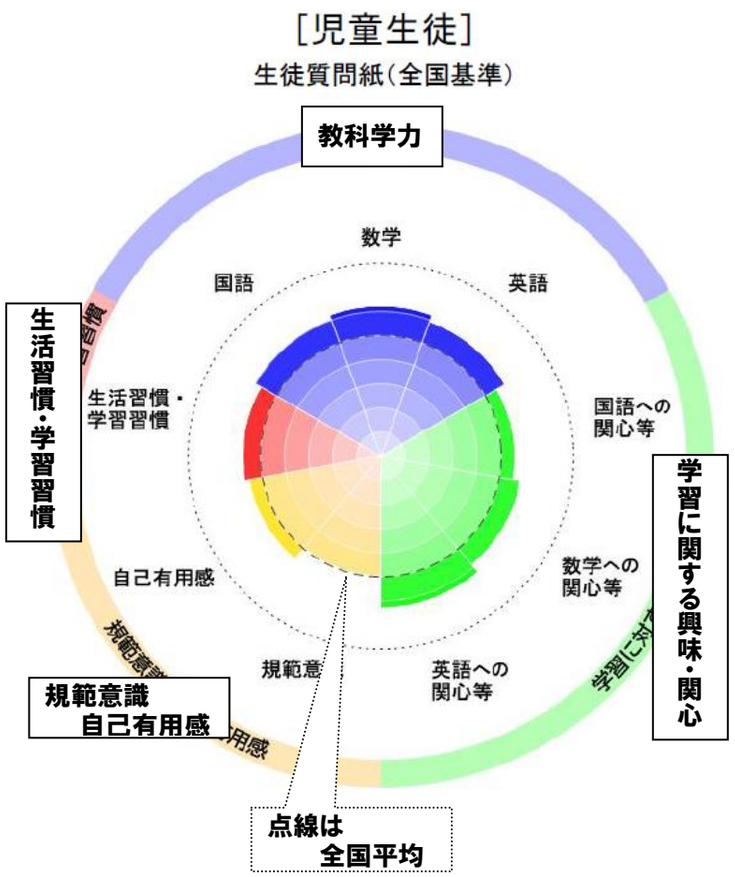
豊能町立吉川中学校
校長　遠 藤　克 俊

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

晩秋の候、保護者のみなさまには益々ご清祥のこととお喜び申しあげます。平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、4 月 18 日（火）に、3 年生を対象に「全国学力･学習状況調査」を実施しました。今年度は、国語、数学、英語の３教科の学力調査と、学習状況調査となりました。その結果につきまして「国語」、「数学」、「英語」、「学習状況（生徒質問紙より）」のそれぞれについて分析した結果を、下記のようにご報告します。

記

全国平均との比較



[概要]

左図（少し見にくくて申し訳ありません）は、今回の調査で、「教科学力（国・数・英語）と、学習状況調査から読み取れる「学習に関する興味・関心」、「生活習慣や学習習慣」、「規範意識・自己有用感」について、全国平均との比較で示したものです。

「教科学力」は３教科とも全国平均を大きく上回りました。また、「学習に関する興味・関心」や「生活習慣・学習習慣」でも全国をかなり上回る好結果でした。そして「規範意識・自己有用感」では、「規範意識」は全国同等でしたが、「自己有用感」でついに全国平均を上回るといううれしい結果となりました。

（１）「国語」について

〇全体の結果概要

正答率については、すべての問題で全国平均を上回りました。無回答率については、１５問中の１４問で全国平均よりも良好な結果となりました。以下に正答率と無回答率について全国平均と比較をしながら分析しています。

【△は全国を上回ったポイント、▼は全国を下回ったポイント】

〈正答率が全国と比較して特に上回っている問題〉

１二「インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する」（正答率　△15.2 ポイント）

意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかを問う、選択式問題です。

３二「漢字を書く（おし量って）」（正答率　△25.8 ポイント）

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかを問う、短答式問題です。

〈正答率が全国と比較して特に上回っており、無回答率も全国と比べ顕著に低い問題〉

４三「現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」（正答率　△9.1 ポイント／無回答率　▼10.1 ポイント

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかを問う記述式問題です。

〈無解答率が全国と比較して高かった問題〉

２二「二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」（無回答率　△1.1 ポイント）

観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかを問う選択式問題です。

〈考察〉

正答率・無回答率の傾向から、漢字などの基本的な知識の定着や、文章の内容を読み取る力、書きまとめる力などが、生徒の中で積み重ねられていることが見て取れる結果でした。特に記述問題については、今回の分析で取り上げた問題以外についても、全国平均と比べて無回答率が大きく低い傾向にありました。日頃の学習や生活の中で、自分の考えを表現する力が培われてきた結果だと思われます。また、間違えることを恐れずに課題に挑戦する姿勢が生徒の中で育まれているとも考えられます。

一方で、無回答率が全国と比較して、わずかながらも高かった問題は、論説文を読み比べ、表現の方法として共通の特徴を見いだす問題でした。多くの生徒が日常で接する文章と比べ、文体・内容共に難しい文章ではありましたが、文章を分析的に読み解く力の充実が必要であると思われます。

以上のことから、これまでの学習活動の成果を踏まえながら、観点を持って言葉に接する学習活動をより充実させる授業づくりを進めると共に、生徒が様々な文章に触れられるよう、読書活動を推進していきたいと思います。

（２）「数学」について

〇全体の結果概要

正答率では、全１５問で正答率が全国平均を上回りました。無回答率では、１５問中の１３問で無回答率が全国平均を下回りました。以下に正答率と無回答率について全国平均と比較をしながら分析しています。

〇特徴的な設問

＜正答率が全国と比較して大きく上回っている問題、高い順に3問＞△は、本校と全国との正答率の差

問題７（１）	１９６１年～１９７５年の四分位範囲を求める	△２６.７ポイント
問題６（２）	はじめの数にかける数が２、たす数が６ならば、計算結果はいつでも３の倍数になることの説明を完成する	△20.0ポイント
問題２	１２（ｘ／４＋ｙ／６）を計算する	△15.0 ポイント

＜無回答率が全国と比較して大きく下回っている問題、高い順に3問＞▼は、本校と全国との無回答率の差

問題９（１）	同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	▼12.6 ポイント
問題７（２）	箱ひげ図の箱に着目して説明する	▼10.7 ポイント
問題６（２）	二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	▼7.6 ポイント

＜無回答率が全国と比較して上回っている問題＞△は、本校と全国との無回答率の差

問題５	ある階級までの累積度数を求める	△1.1 ポイント
問題８（２）	グラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	△0.4 ポイント

〈考察〉

すべての領域（「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の４領域）において、全国の平均正答率と比べて高い正答率でした。特に、「図形」は 12.3 ポイント,「データの活用」では 13.1 ポイントと大きく上回っていました。上記の＜無回答率が全国と比較して大きく下回っている問題、高い順に３問＞にも、この「図形」と「データの活用」の領域であることから、生徒たちはこの２つの領域について学習内容が十分に定着できていると考えらえます。昨年度の「データの活用」の領域においては正答率が全国平均と比べて低く、データを整理してその結果から傾向などを読み取って判断し記述できるようになることが課題でしたが、今年度はこの領域の力の大きな向上が見られた結果でした。また、記述する力については、問題７（２）「箱ひげ図の箱に着目して説明する（「データの活用」の記述式問題）」の正答率が全国平均と比べて 10.7 ポイント高い結果を踏まえると、データを整理してその結果から傾向などを読み取って判断し記述できる力も十分あると考えられます。評価の観点から見ても「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の正答率の方が全国平均と比べて高い結果であり、生徒たちは事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりすることに強みがあると考えられます。

一方で、＜無回答率が全国と比較して上回っている問題＞の問題５「ある階級までの累積度数を求める」や問題８（２）「グラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ」では無回答率が全国平均と比べて高い問題もあり，基本的な知識・技術の未習得や問題を読み取る力に課題があることも明らかになりました。授業で習う数学的な表現や言葉の理解を引き続き丁寧に指導していく必要があると考えられます。

以上のことから、これまでのように基本的な知識・技能の定着をはかりながら、思考・判断・表現の力を高められるような授業、そして数学で身につけた思考力を身のまわりの課題解決に応用して解決する楽しさを感じられるような授業研究に取り組んでいきたいと思います。

（３）「英語」について

〇全体の結果概要

平均正答率で全国平均が 45.6%、大阪府平均が 45%の中、本校の平均が 53%と、全国平均、大阪府平均ともに大きく上回る結果となりました。標準偏差を見ると、全国平均が 4.2、大阪府平均が 4.3 となる中、本校の平均が 3.7 となっており、生徒間のばらつきが全国等と比べて少ないとみることができます。また、話すことの調査では、全国平均正答率が 0.6 ポイントと低かったことから、難しい問題だったことが予想されますが、その中でも本校の平均正答率は 1.0 ポイントと全国平均よりも高い結果となりました。

【△は全国を上回ったポイント、▼は全国を下回ったポイント】

〇特徴的な設問

・正答率が高かった問題の例

問題 1(1) /　△6.4 ポイント

ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題
（聞くこと / 知識技能 / 選択式）

問題 1(2) /　△20.2 ポイント

道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題
（聞くこと / 知識技能 / 選択式）

問題 1(3) /　△16.4 ポイント

買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題
（聞くこと / 知識技能 / 選択式）

・正答率が低かった問題の例

問題６ / ▼3.6 ポイント

友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する問題(読むこと / 思考・判断・表現力 / 選択式)

問題 7(1) /　▼2.9 ポイント

図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する問題
(読むこと / 知識技能 / 選択式)

問題 9(2) /　▼2.8 ポイント

メールの英文を依頼する表現に書き換える問題(書くこと / 知識技能 / 短答式)

〈考察〉

ほぼすべての問題で正答率が全国平均を上回っていました。特に「聞くこと」に関しては多くの問題で全国平均を 10 ポイント以上上回る高い正答率でした。このことから、小学校の頃から英語に親しみを持っていることもあり、英語を聞き取る能力に長けていると考えられます。

一方で、これは定期テストでも見られる傾向ではありますが、決められた文法を使って答える問題には対応できるものの、それらを場面に合わせて応用していく力がまだ足りないように感じられます。その課題が問題 9 の(2)の正答率が全国平均を下回っていることから見て取れます。また、全国平均上回っているものの、問題 8(2)では 21.5%、問題 10 では 12.3%と他の問題に比べて低い正答率でした。

以上のことから、これからも基本的な学力の定着を図りながら、文法事項を抑えて終わるのではなく、日常のどういった場面で使うことができるのかを連想させながら定着を図れるような学習活動を取り入れることで、得意な部分を伸ばしながらも表現の幅が広がるような指導方法を授業に取り入れていきたいと考えています。

最後に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」のどれを見ても、無回答率が 1 問全国平均を下回るものがあったがそれ以外の問題では全国平均をすべて上回る結果になりました。そのことから、答えようとする意欲や、英語を読もうとする意欲をみとることができます。この英語への意欲を大事にしてこれから指導していきたいと思います。

（４）学習状況調査について

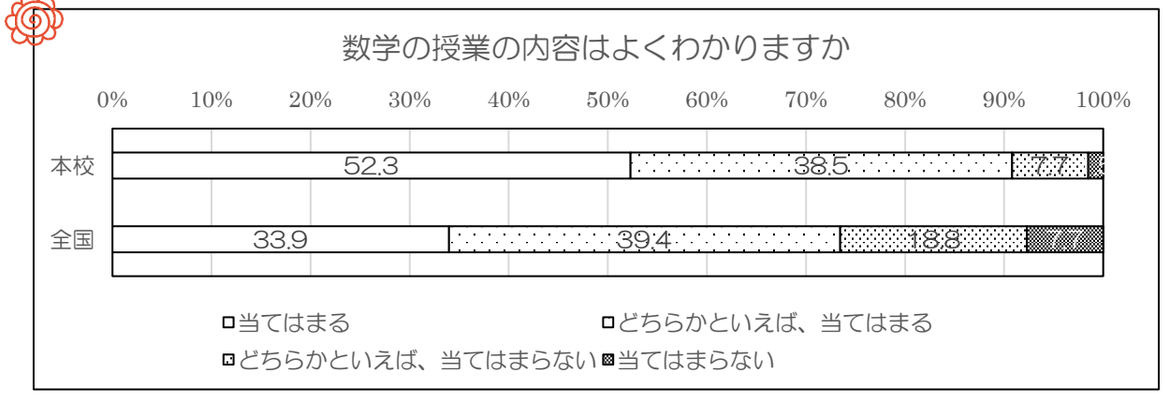
学習状況調査（生徒質問紙）について、「学習に関する興味・関心」、「生活習慣や学習習慣」、「規範意識・自己有用感」、そして「その他」の領域ごとに、特徴的な項目を示しながら報告いたします。（特に特徴的な項目については、グラフもつけています）

「○」は肯定的回答が全国を上回った質問、「●」は全国を下回った質問
「△▼」のついた数値は、肯定的回答の本校と全国とのポイントの差です
グラフは「 」がかなりの好結果、「 」は好結果、「課題」は課題であるという意味です。

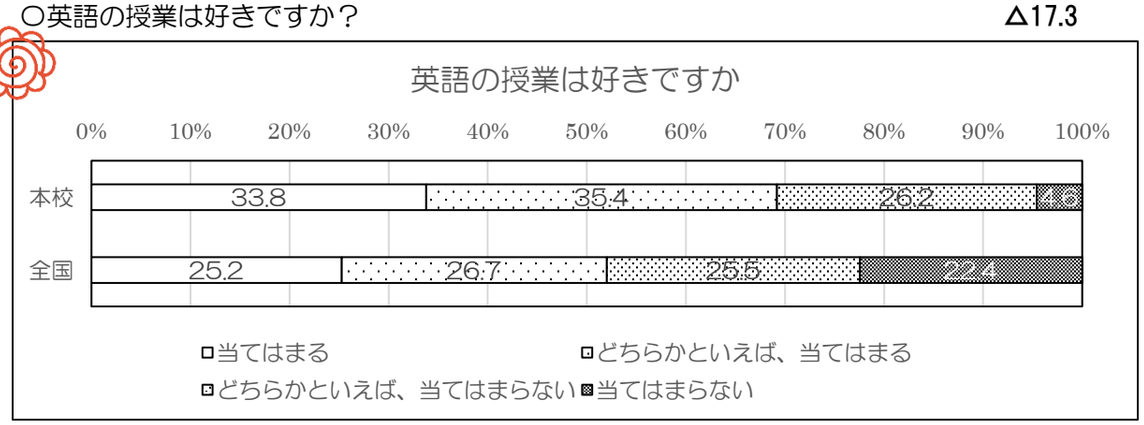
≪学習に関する興味・関心について≫

※学力調査の教科であった「国語」「数学」「理科」についての質問の結果を中心に、ICT 機器を活用した学習に関しての質問についても、特徴的な結果を記しています。

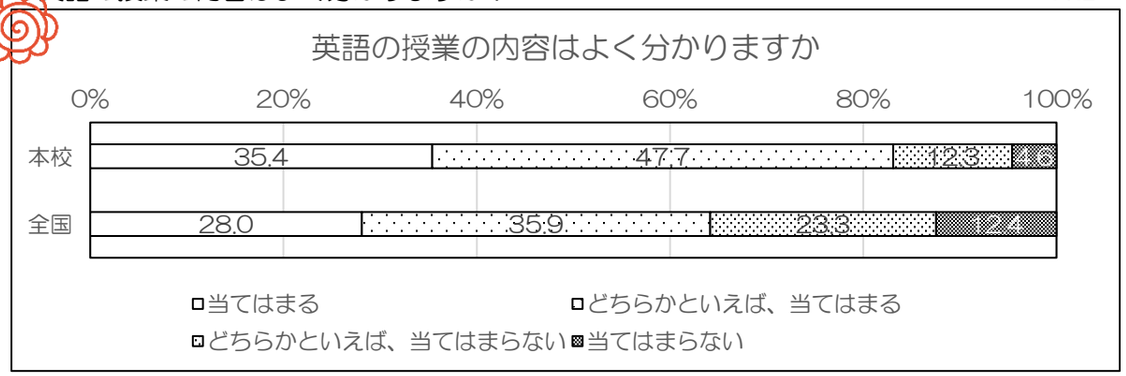
○国語の勉強は好きですか？ △6.3
○国語の勉強は大切だと思いますか？ △0.7
○国語の授業の内容はよく分かりますか？ △9.2
○数学の授業は好きですか？ △11.0
○数学の勉強は大切だと思いますか？ △2.7
○数学の授業の内容はよく分かりますか？ △15.5



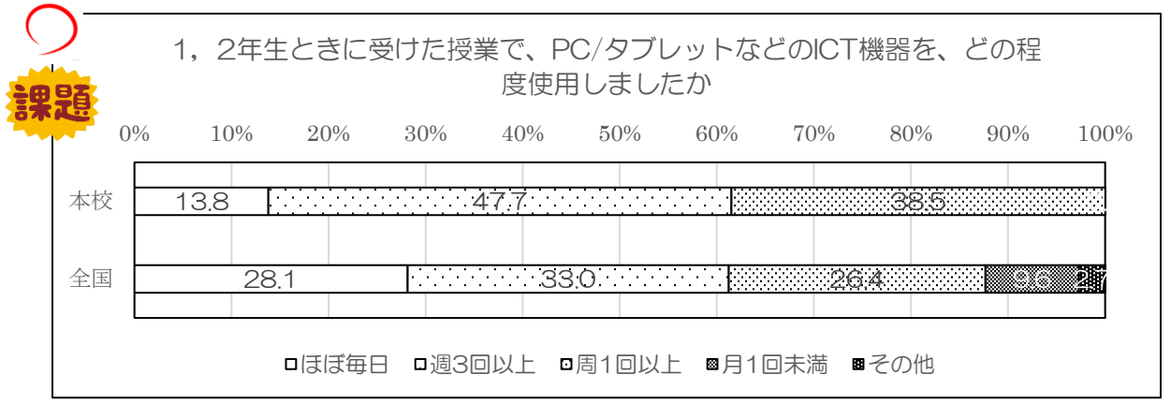
○英語の授業は好きですか？ △17.3



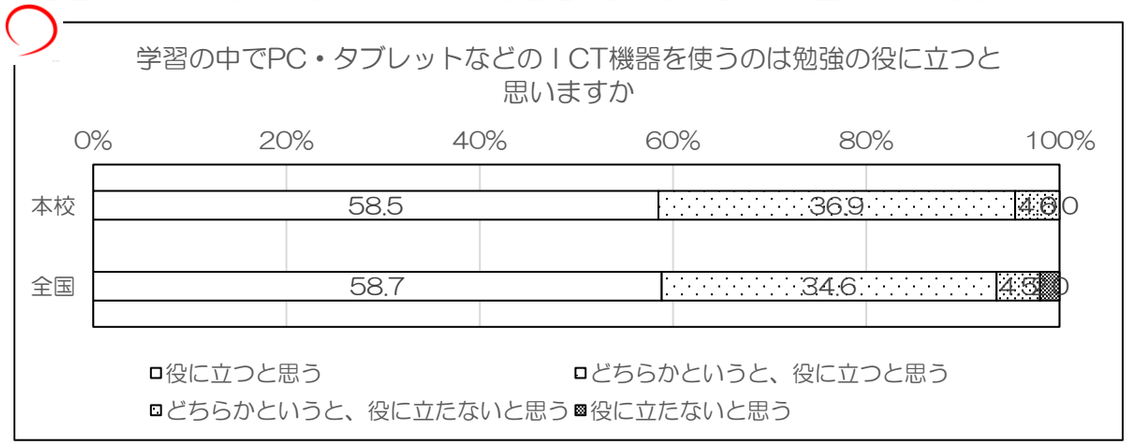
○英語の勉強は大切だと思いますか？ △4.3
○英語の授業の内容はよく分かりますか？ △19.2



○1，2 年生のときに受けた授業で、PC,タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか？



○学習の中で PC/タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか？△2.1



＜考察＞

今年度の学力調査では、国語で 7.2%、英語で 7.4%、数学に至っては 10.0%も全国の平均正答率を上回る好結果でした。この結果と呼応するかのように「学習に関する興味・関心について」も、どの教科も全国平均を大きく上回りました。どの教科においても、「教科の勉強が好き」を肯定的に解答した割合が高く、生徒たちが前向きに、また意欲的に授業に臨んでいるように思います。またうれしいことに、「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答の割合も高く、数学や英語に至っては全国より 15%以上も高いという好結果でした。

大阪府の SE 事業（スクールエンパワーメント推進事業）を受け、ここ数年は「わかる授業」の構築を図るために、教員間における相互授業参観や公開授業の取組みを通し、授業改善に取り組んできている成果が表れてきているようです。これからも今回の調査対象となった教科に限らず、どの教科も「わかる授業」の創造に向けて努力をしてまいります。特に生徒の興味や関心を引く、「ワクワクするような授業」、生徒自身が授業の中で「わかった」とつかみとるような授業づくりに、さらに精進していかねばと考えています。

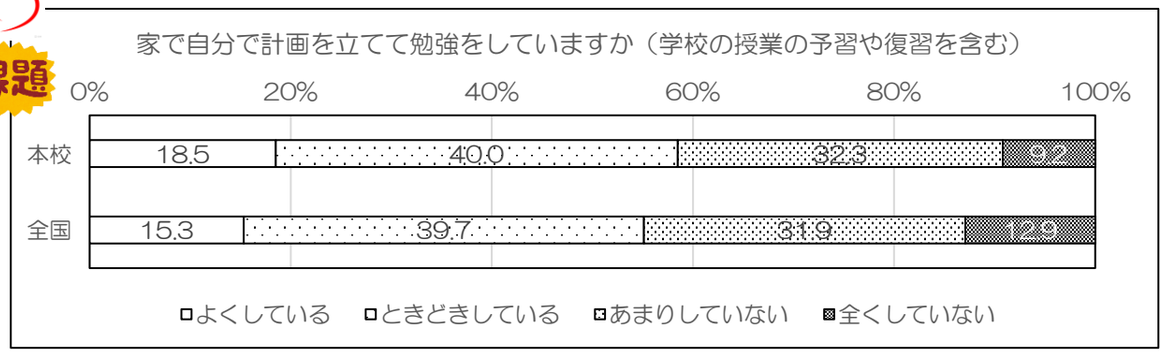
PC・タブレットの活用という点では、昨年度の結果に比べてかなり改善（使用頻度がかなり増えた）してきていますが、ただ授業で使用するだけでなく、どのような場面で、どのような活用の仕方をすれば、生徒の学習意欲を高めたり、思考力を高めることができるのかなど、有効な活用の仕方についての研究も進めていきたいと考えています。

特に一人一台タブレットが導入されているので、今後は家庭への持ち帰りも積極的に行いながら、家庭学習の充実にもつなげ、生徒が主体的に学習に取る汲める環境づくりにも注力していきたいと考えています。

≪生活習慣や学習習慣について≫

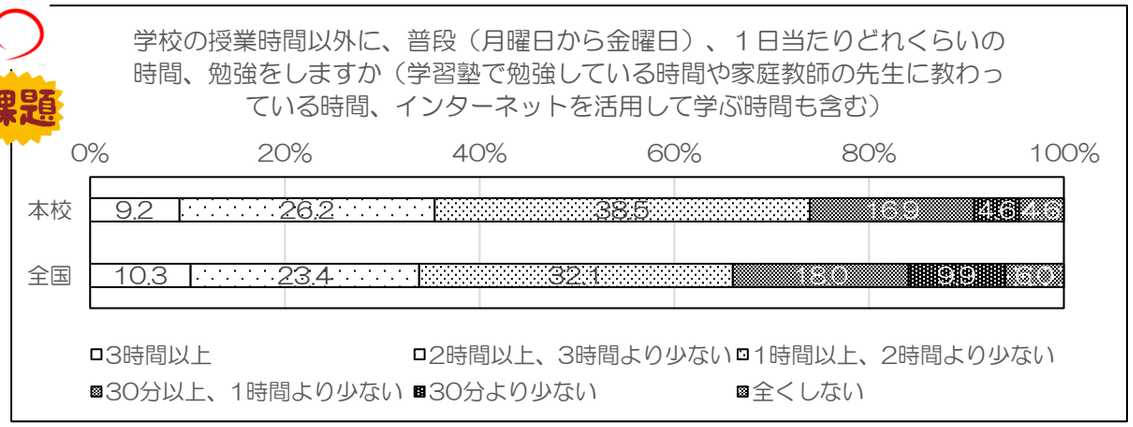
○朝食を食べていますか？	△2.6
○毎日、同じくらいの時間に寝ていますか？	△9.7
○毎日、同じくらいの時間に起きていますか？	△2.5
○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	△3.5

課題



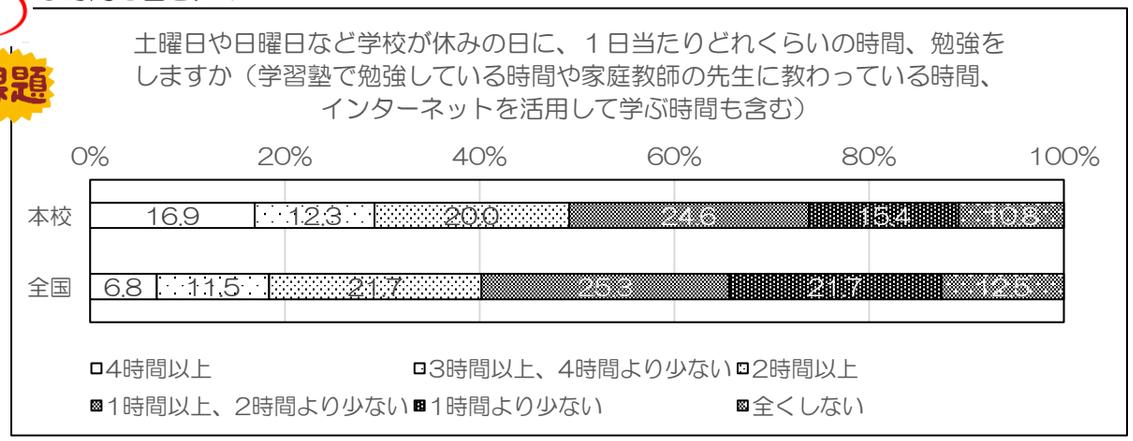
○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）？

課題



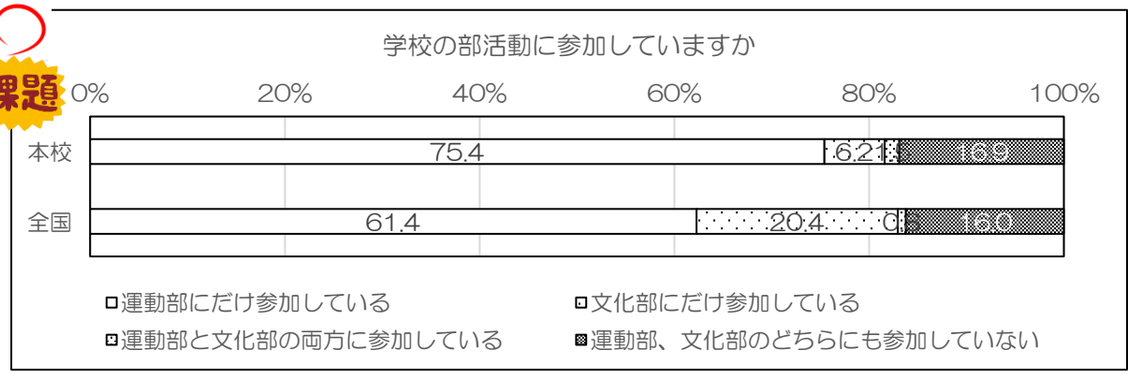
○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）？

課題

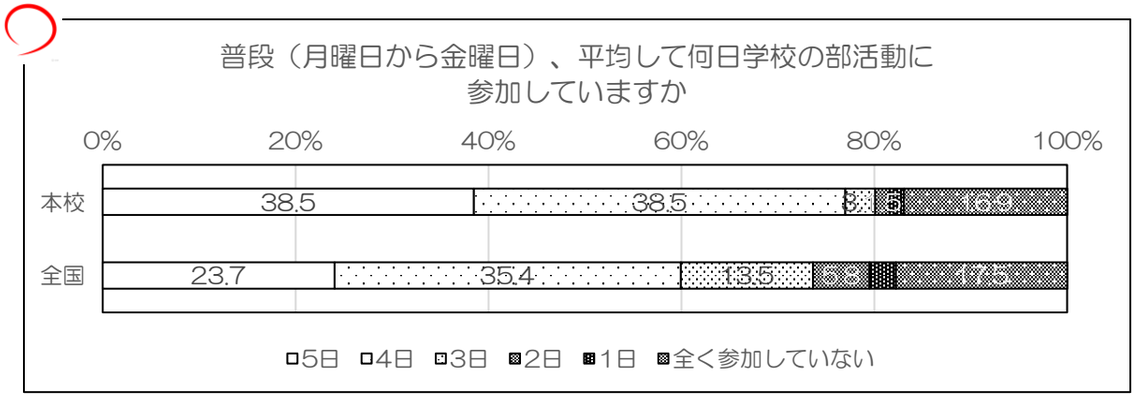


○学校の部活動に参加していますか？

課題



○普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか？



＜考察＞

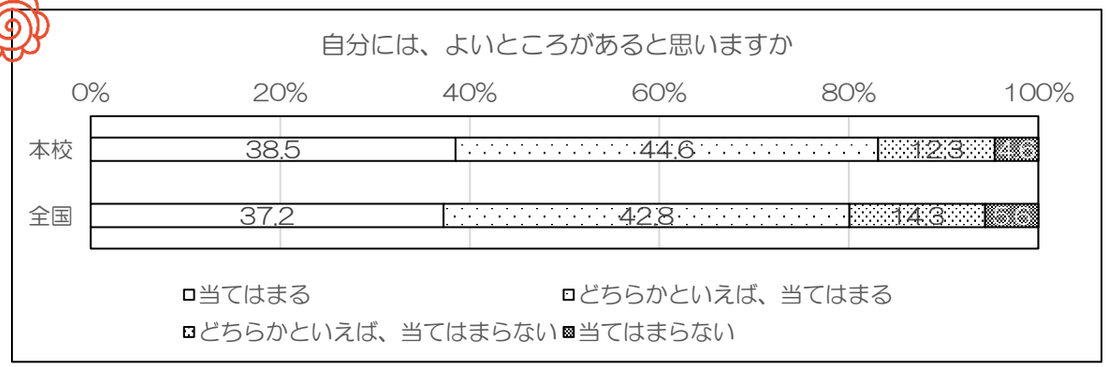
「生活習慣」においては、朝食の喫食率を高めることが課題の一つでしたが、「朝食を食べている」の肯定的回答が久しぶりに全国を上回りました。「寝る時間」「起きる時間」が毎日同じであると答える割合も高く、概ね規則正しい生活もできているように思います。家庭の支えもあり、本校の生徒は、全体的に日々の活動の基盤となる生活習慣はできているように思われます。ただ、今回の調査では、携帯電話やスマホの使い方に関する質問がありませんでした。昨年度までは長時間の使用が気になる生徒もいる中、家庭での携帯やスマホの約束が守られている率が比較的低かったので、携帯・スマホの使い方については、今後生徒たちに考える機会を増やしていきたいと考えています。

「学習習慣」については、学校の授業以外での勉強時間も全国と比べても長めの生徒が多いですし、自分で計画を立てて勉強している生徒の割合も高いのですが、例年に比べると、計画を立てて勉強をしている生徒の割合が低く、また平日の勉強時間もやや短くなっています。ここで気になるのは、学習塾等で学習している生徒も多いと思われるのですが、自分で課題意識を持ち、計画的に学習できているかということです。塾に頼るなど、受動的な学習の仕方になっている生徒の割合が高いのではと危惧します。主体的に、能動的に学習する習慣をもう少し身につけさせたいです。

今回の調査では「部活動」に関する質問が加わりました。全国に比べ、本校の生徒は概ね部活動にも積極的に取り組んでいるようですが、部活動に参加していない生徒の割合は決して低くありません。「部活動」については、地域移行が全国的に進められる中、生徒数の減少も考え、今後の在り方については検討を重ねていきたいと考えています。

≪規範意識・自己有用感について≫

○自分には、よいところがあると思いますか？ **△3.1**



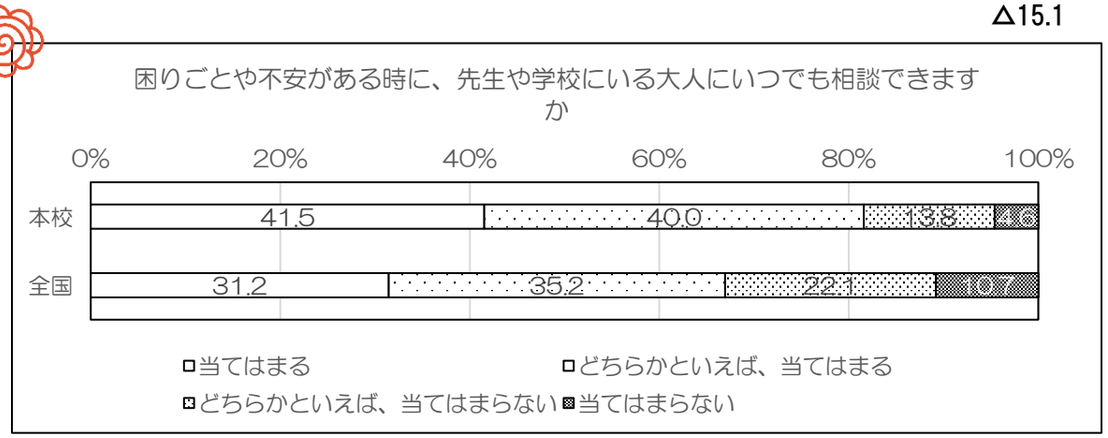
○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？ **△6.5**

○将来の夢や目標を思っていますか？ **△3.0**

●人が困っているときは、進んで助けていますか？ **▼3.5**

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか？ **△3.0**

○困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますかは？ **△15.1**



○人の役に立つ人間になりたいと思いますか？ **△2.3**

○学校に行くのは楽しいと思いますか？ **△4.3**

○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？ **△3.9**

○友達関係に満足していますか？ **△1.5**

○普段の生活の中で、しあわせな気持ちになる子とはどれくらいありますか？ **△0.9**

＜考察＞

今年度の調査では、この「規範意識・自己有用感」に関する質問項目が減りました。

その中でも、毎年一番に注目する質問項目である「自分には、よいところがあると思います

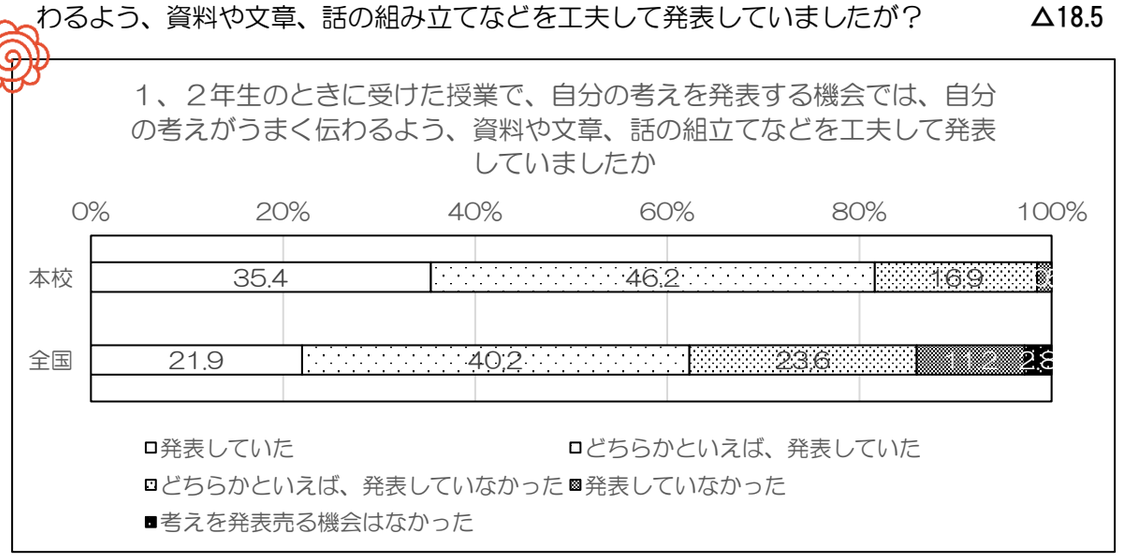
か？」の肯定的回答が、ついに全国平均を上回りました。自尊感情の高低を図るストレートな質問ですが、２年前は十数％も全国に比べて低かったことを考えると、急激な伸びで喜んでいます。昔から本校の生徒はこの項目が低いという傾向がありました。これを「謙虚」「奥ゆかしい」などのプラスの評価をする側面もありましたが、「自分に自信を持っている」「自分自身を認められている」と思えない生徒が多く、素敵なところをたくさん持っているのに、周りとの比較が強いせいか、素直に自分のよさだと認められないところに、本校の大きな課題があるととらえ、この２，３年は取り組んできました。教職員の生徒たちへの声掛けやかかわり方にも改善を加え（肯定的な評価をする場面を増やしました）、生徒会を中心に生徒自らが考えて、自主的に取り組む活動などを増やす努力をしてきました。それらの成果が数字にも表れてきていると思われます。

その他、自己有用感や規範意識に関する関す質問では、概ね全国平均を上回る結果になりました。「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的回答が非常に高いことからも、生徒と教職員の信頼関係が築けている結果だと嬉しく思います。

≪その他について≫

「その他」については、「学校に関すること」と「本人・家庭に関すること」に分けて報告します。

○1，２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたが？ △18.5



[学校に関すること]

○1，２年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか △19.5

○1，２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか？ △5.4

○1，２年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか？ △10.9

○1，２年生のときに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか？ △10.7

○学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか？ △0.3

○総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか？ △7.4

○あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動をしたり、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか？ △2.1

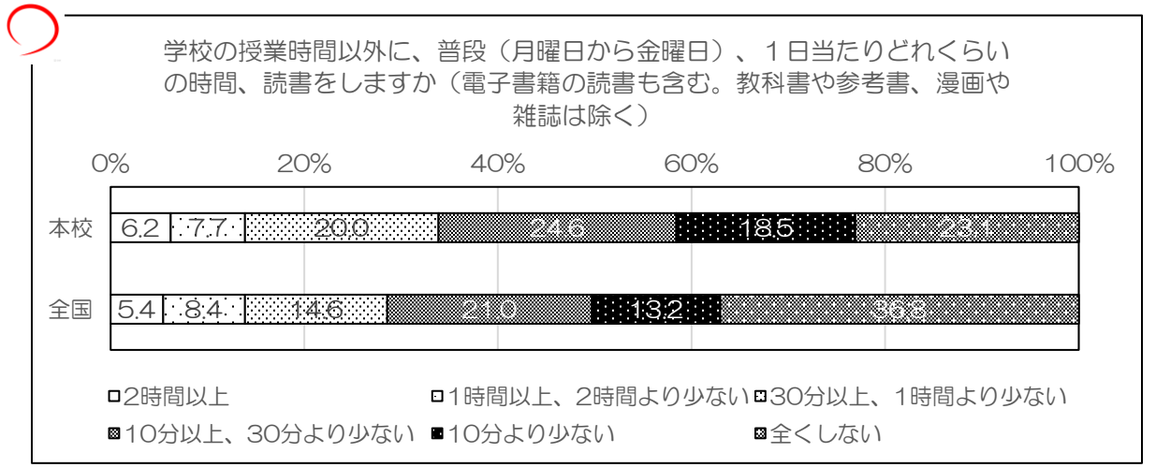
○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか？ △3.8

●道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか？ ▼3.2

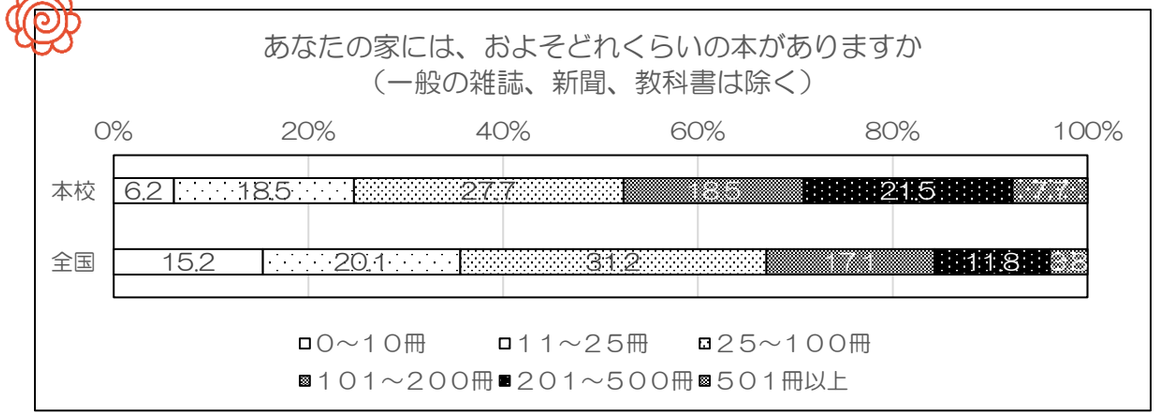
[本人・家庭に関すること]

○読書は好きですか？ △0.2

○学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜日）、１ 日あたりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）？



○あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）？



○今住んでいる地域の行事に参加していますか？　△8.1

●地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか？　▼0.8

＜考察＞

「学校に関すること」については、先に述べた国語、数学、英語の３教科以外の授業においても、話し合い活動など生徒が主体的に取り組む活動が授業の中で多く組み込まれ、その中で生徒たちは思考をめぐらし、自分の考えを持ったり、その考えを伝えたり発表したりという活動を前向きにやっているようです。特に自分の考えをまとめ、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表するといったことができているように思われます。また、総合的な学習の時間でも、その学習の意味を理解し、受け身になることなく課題解決に向けて調べたり、これまでの学習で学んだことを関連させて考えを深めたりするなど、意欲的に取り組んでいるのがうかがえます。道徳の授業も注力して行っているのですが、もう少し話し合いの場面等を入れ、互いに考えが深まるような授業づくりをめざす必要性を感じています。

そして、「本人・家庭に関すること」でまず注目したいのは読書環境です。携帯電話やスマホの影響もあり、昨今子どもたちの読書離れが言われていますが、本校は読書に親しむ生徒が全国に比べて多いように思います。それには家庭環境も大きく影響しているようで、全国に比べても家庭にある本の冊数が多い傾向が出ています。この家庭環境と本校生徒の学習習慣とは大いに関係していると思われます。

今年度も、地域の行事に参加している割合は高く、うれしい結果ですが、もう少し自分事として地域をよくしたり社会をよくしたりするために何ができるかを、今後は考えさせていきたいです。地域について考えさせる機会を増やしたり、昨年度から実施しているスマホ教室等で、地域に貢献したりする活動を積極的に実施していきたいと考えています。

（５）最後に

昨年度は、学力調査で課題が多い結果となりましたが、今年度はかなり改善され、全体的に良い結果となりました。「授業が分かりやすい」の肯定的回答の割合も高く、授業改善の取り組みの成果が出てきているととらえたいです。今後も教科の枠を超えた授業研究を重ね、生徒が施行する場面を増やし、主体的に取り組める授業づくり励んでまいります。

今回の調査で、何よりうれしかったのは「自己有用感」を問う質問での肯定的回答の割合が全国平均を超えたことです。長年の本校の課題であったので、一つのアンケート結果に過ぎないとはいえ、今回の結果は素直に喜びたいと思います。実際に生徒を見ていて、周りの目を意識しすぎず自分を出せたり、人前でもしっかり自分の考えを述べたりすることができる生徒が増えたように感じます。これからも生徒が自主的に活動し、企画したり、発表したりする場面を増やすなどの工夫を重ねていき、自分に自信が持てるような取組みを推進してまいります。

今回の学習状況調査では、概ねどの質問項目も肯定的回答の割合が全国平均を超えていたのですが、これまでに比べてやや下がっていたのが、地域の行事への参加に関する内容や地域や社会を考える内容についてでした。コロナ禍が３年ほど続いていた影響もあると思われますが、今後は「地域の中の学校」を意識し、生徒たちにも地域の方々とふれあう機会をつくり、スマホ教室等で地域に貢献できる取組みを続けていきます。

今後も、今回の結果を大切に受け止め、生徒たちのさらなる成長に向けて、全教職員で精進してまいります。生徒たちの成長には、保護者のみなさんのご理解とご協力が不可欠です。今後も学校からは積極的に保護者のみなさんに向け、情報を発信してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和５年度全国学力・学習状況調査の問題等については、国立教育政策研究所のホームページ（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html）に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

町全体の分析結果については、町ホームページに掲載されています。